

水泳指導における感染予防対策（例） Ver.3

狭山市教育委員会

1 施設管理や授業前後の消毒

- ・プールの水質管理を徹底し、遊離残留塩素濃度（0.4～1.0 mg/L）をしっかりと保つ。
- ・児童生徒が触れる箇所（ドアノブや蛇口なども含む）の消毒を行う。プールサイドや使用する用具を水質管理されたプールの水で消毒することもよい。

2 更衣について

- ・更衣室内が一番密集のリスクが高いため、一斉に入らず時間差をつけたり、体育館や武道場、空き教室等を活用して分散させたりして、更衣室内に入る人数を制限する。
- ・更衣中はマスクをつけさせ、不必要な会話や発声をしないようにする。外したマスクを袋やバッグに入れさせる。
- ・水着や衣服については、他の児童生徒に触れさせないように、ビニール袋やバッグに入れるようにさせる。

3 授業開始時や準備運動について

- ・プールサイドなどに集合する場合は、身体的距離（原則2m 難しい場合は1m以上）を保つようにする。
- ・授業開始前には手洗いを徹底する。
- ・授業前にも児童生徒の健康状態を把握し、体調が優れない児童生徒の参加は見合わせる。
- ・準備運動は身体的距離を保つように行う。
- ・集団を2つに分け、更衣と準備運動の順番を入れ替えて1カ所に集まりすぎないようにする。

（例）①集合・あいさつ・準備運動 → 更衣 → シャワー → 入水

②更衣 → 集合・あいさつ・準備運動 → シャワー → 入水

4 活動中について

- ・バディシステムを行う場合は、手をつなぐなど身体接触の無いようにし、声を出さずアイコンタクトやジェスチャーなどで行う。
- ・プール内でも身体的距離（原則2m 難しい場合は1m以上）を保つようにする。
- ・直接体が触れあわないように、ビート板やフラフープを間に介して、距離をとって活動する。
- ・泳ぐ場合は片道だけの活動にしたり、ターンを行う場合は、2コースを使ってターン後に隣のコースに移動したりする。（一方通行での実施）
- ・教員は電子ホイッスルやハンドマイク等を活用して大きな声などで飛沫が飛ばないように工夫する。フェイスシールドやプール用マスクなども活用できる。
- ・プールサイドやプール内では、緊急時を除き、なるべく声を出さないように指導する。

5 その他

- ・スイミングキャップやゴーグル、タオルなどの貸し借りをさせない。
- ・1度に参加できる児童生徒の人数（上限80名）については、上記のような対策を実施すると、例年通りのクラスや学年の組み合わせができないことも考えられるが、各学校の実情に合わせて工夫する。その結果、授業時数が少なくなることが考えられるが、できる限り実施していく。（結果的に年間指導計画よりも時数が減ることもやむを得ない）
- ・履修漏れがないよう（特に小学校2・4・6年、中学校2年）配慮する。